

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	
施 設 名	横浜みなとみらいホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	26,682	(千円)
	公 演 事 業	6,250 (千円)
	人 材 養 成 事 業	6,241 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	14,191 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	こどもの日コンサート 2022	令和4年5月5日	[出演] 岩村力(指揮)、神奈川フィル ハーモニ管弦楽団 [曲目] 中学生公募曲トブレ 他	目標値	1,200
		神奈川県立音楽堂		実績値	1,592
2	横浜みなとみらいホール リニューアルオープン記 念公演: 神奈川フィルハ ーモニー管弦楽団	令和4年10月29日	[出演] 沼尻竜典(指揮)、神奈川フ ィルハーモニ管弦楽団 [曲目] R. シュトラウス: アルプス交響曲 他	目標値	1,440
		大ホール		実績値	1,224
3	マレク・ヤノフスキ指揮 ドレスデン・フィルハー モニー管弦楽団	-	(申請取下げ)	目標値	1,268
		-		実績値	-※
4	第40回横浜市招待国際ピ アノ演奏会	令和4年11月17日・ 19日	[出演] レミ・ジュニエ、小林愛実、 テオ・フシュヌレ、石井楓子(ピア ノ) ほか	目標値	1,669
		大ホール/小ホール		実績値	2,460
5	石田組 年末感謝祭	令和4年12月31日	[出演] 石田組、石田組ジュニア [曲目] エバン・コール(酒井麻由 佳編曲): 鎌倉殿の13人 他	目標値	1,600
		大ホール		実績値	1,865

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	プロデューサー in レジデンス	令和4年11月3日・28日、令和5年2月16日	[実施事業] 11/3 井上道義 指揮 NHK 交響楽団 藤木大地 (カウンター)、11/28 音楽劇『天岩戸』 他1事業	目標値	2名
		大ホール/小ホール		実績値	1名
2	みなとみらい Super Big Band	通年	[講師] 具理然 (Lowland Jazz/トランペット)、青木タイセイ (熱帯JAZZ 楽団/トロンボーン)	目標値	1,200
		大ホール 他		実績値	1,967
3	横浜みなとみらいホール ホール・オルガニスト	通年	[事業内容] ホール・パイプオルガンの特性学習、構造研修、MC 研修 他	目標値	1
		大ホール 他		実績値	1
4	吹奏楽部応援プロジェクト	令和4年	[講師] ぱんだウインドオーケストラメンバー	目標値	1,000
		横浜市立上菅田中学校、中川西中学校 他		実績値	478

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	横浜みなとみらいホール 出張公演 横浜18区コン サート 第Ⅱ期	令和4年	[出演] 広瀬悦子・河村尚子(ピアノ)、毛利文香・大江馨(ヴァイオリン)、田原綾子(ヴィオラ) 他	目標値	2,240
		戸塚区民文化センター、はまぎんホールヴィアマーレ 他		実績値	1,877
2	パイプオルガンと横浜の 街2022	令和4年	[出演] 早川幸子、早島万紀子、大平健介、宇内千晴、近藤岳、中田恵子、安杏菜 他	目標値	600名
		山手133番館、明治学院大学横浜キャンパス、横浜海岸教会 他		実績値	1,195
3	Just Composed in Yokohama —現代作曲家シ リーズ—	令和5年1月 3月	[出演] 西川竜太(指揮)・ヴォクスマーナ(声楽アンサンブル)、福間洸太郎(ピアノ)・目等貴士(ティンパニ)	目標値	600名
		小ホール		実績値	586
4	ミュージック・イン・ ザ・ダーク	令和4年11月1日	[出演] 和波たかよし・川島成道・成田達輝・渡辺玲子(ヴァイオリン) [曲目] ヴィヴァルディ:四季 他	目標値	320
		小ホール		実績値	381
5	学校アウトリーチプログ ラム	令和4年	[講師] 外山香(箏)、池田正博(ジャンベ) 他	目標値	250
		横浜市立川和東小学校、新田中学校、宮谷小学校、矢部小学校		実績値	443

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>横浜市における文化政策の基本方針である「市民の文化活動の支援」、「次世代育成」、「創造性を活かしたまちづくり」、「先進的な文化芸術の国内外への発信」に基づき、横浜みなとみらいホールでは、「音楽で人と人をつなぐ」、「音楽を通して横浜への愛着を育む」、「音楽の価値を継承し、新しい価値を創造・発信して次代へつなぐ」というミッション・ビジョンの元、事業を展開しました。特に令和4年度は、大規模改修工事による休館からリニューアルオープンを迎え、休館中の事業展開で培った地域の中核施設としての役割をよりいっそう展開する事業を計画し、一部新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった事業（公演事業「ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団」）もありましたが、概ね当初の予定通り進めることができました。</p> <p>公演事業では、中学生が企画から公演実施まで携わった「こどもの日コンサート」、小中学生と出演者の交流の場を設けた歴史ある「横浜市招待国際ピアノ演奏会」、将来音楽家を目指す子どもたちが出演した「石田組 年末感謝祭」、人材養成事業では、アーティストプロデューサーとともにホールとアーティスト相互の可能性を高め合う「プロデューサーinレジデンス」、プロの演奏家が中学校の吹奏楽部を指導し、最終的に演奏で共演した「吹奏楽部応援プロジェクト」、普及啓発事業では、横浜市内各区の文化施設で開催した「横浜18区コンサート」、横浜の文化資源で各所に点在しているオルガンを巡る「パイプオルガンと横浜の街」、毎回新作を初演し、新たな価値を創造する「Just Composed in Yokohama」など、横浜からの発信、新たな価値創造ということを意識するとともに、アーティストと地域、子どもたちをつなぐ事業を社会的役割や地域の特性に基づき展開しました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>次代を担う子どもたちやアーティスト、演奏会等に携わる人々相互のつながりを深めることで、今後の文化・芸術の水準向上につながるような取組みを様々に展開しました。公演事業「こどもの日コンサート」の中学生プロデューサーは、コンサートの企画から構成、プログラム製作に至るコンサートの裏方を体験するプログラムですが、2年目を迎えより企画や構成といったコンサートの内容に踏み込んだ参画となりました。また、「横浜市招待国際ピアノ演奏会」では、これからの国内外での活躍が期待できるピアニストをいち早く横浜から発信するとともに、子どもたちとの交流会も実施しました。人材養成事業「プロデューサーinレジデンス」では、大学でアートマネジメント等を学ぶ学生とアーティスト、ホールがともに作品を制作しました。こうしたプログラムを通じて、携わるすべての人々にとって、今後の活動の刺激ともなり、文化芸術の発展、水準の向上にもつながっているものと思います。</p> <p>地域社会に対しては、身近な場所で誰もが音楽を体験できる場を提供することに努めました。普及啓発事業「横浜18区コンサート」では、“地域の施設を知る良い機会だった”という来場者の声もあり、音楽を通して地域を知るきっかけを提供できました。また「パイプオルガンと横浜の街」では、横浜市認定歴史的建造物である通常は非公開の昭和初期の西洋館見学を交えたオルガン演奏会など、自分たちの街の歴史を知り、誇りを感じられる機会となりました。</p> <p>そのほか、大規模改修工事による休館からリニューアルオープンを迎え、地域の賑わい創出に貢献し、地域経済の活性化にもつながるよう、公演事業「横浜みなとみらいホールリニューアルオープン記念公演：神奈川フィルハーモニー管弦楽団」や、大晦日の「石田組 年末感謝祭」などを実施するとともに、公演・人材養成・普及啓発事業すべてを通して、様々な方を対象に音楽事業を実施することによって、人々の生活の豊かさにつながっているものと考えています。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標については、公演・人材養成・普及啓発の各事業で3項目ずつを設定、指標については、公演・人材養成・普及啓発で計29項目設定し、概ね達成したものを含めると21項目において達成の結果となり、全体的に達成度は高いものとなりました。(下記一覧表参照)

指標によっては、数字として実績が低くても、新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止したものを含んでいるもの等は達成としました。(公演事業の入場者数等) また、実績としては未達成でも事業内容からは適正な人数だったと思われ、今後の指標の検討が必要なものもありました。(公演事業:中学生プロデューサーの人数等) 一方、今後も引き続き達成を目指す指標も再認識しました。(普及啓発事業:障がいのある方の入場割合等)

■目標達成状況一覧 (No. =事業番号/実績:達成○・概ね達成△・未達成×)

	目標	指標	NO.	実績	
公演事業	市民が集い、音楽を通して交流する機会を提供	中学生プロデューサーの数:40人	1	27人 ×	
		中学生プロデューサーへのアンケートで、「また当ホールの事業企画に参加したい」の回答:参加者数の87%以上		参加者の83.3% △	
	これまで取り組んできた歴史ある事業を、異なる切り口も加え、横浜・館への愛着を醸成	小学生~10代の鑑賞者数:入場者数の45%		4歳~中学生の来場 47.5% ○	
		若い世代(40代以下)の来場:入場者数の30%	4	20.3% ×	
		来場者アンケートで、満足度4.7以上(5点満点)	5	4.40 ×	
	独自性、企画性のある公演により、地域の中核ホールの存在感を示す	入場者数累計4,400人以上	2	3,089人 ○	
		来場者アンケートで、満足度4.7以上(5点満点)	3	4.36 ×	
		広報実績(新聞、TV、雑誌、WEB等、メディアで取り上げられた件数)500件	5	400件 △	
	人材養成事業	音楽家のプロデュース能力向上	ホールとともに事業をプロデュースする音楽家 3名	1	2名 ○
			レジデンス・プロデューサーとの連携による事業企画 8事業以上	3	8事業以上 ○
事業入場者数3,500人				8,200人 ○	
中高生の表現力や自立心を育む事業を継続実施し、次世代育成を推進		事業参加者数:40人以上	2	39人 ○	
		活動発表の場5回以上/来場者数1,200人以上		活動発表の場8回/来場者1,928人 ○	
		参加者・来場者満足度4.8以上(5点満点)		参加者4.77/来場者4.70 △	
プロの音楽団体の中学校吹奏楽部へのアウトリーチ、音楽での交流、演奏スキルの向上に寄与		参加者家族へのアンケート「事業を通して参加者の成長を感じた」評価5(満点)83%以上		評価4&5:90% ○	
		アウトリーチ学校数2校以上	4	2校 ○	
		合同演奏会来場者数 1,000人以上		425人 ×	
参加者アンケート 満足度4.5以上		4.58 ○			
普及啓発事業	新たな音楽の価値を創造し、次代へ継承	入場者数:600人以上	3	522人 ×	
		参加者アンケートで、事業内容の満足度4.5以上(5点満点)		4.44 △	
	音楽を親しむ市民のすそ野が広がるよう、地域施設や学校での音楽鑑賞・体験の場を提供	入場者数8会場合計2,250人以上	1	1,877人 △	
		来場者アンケートで、「初めて当該コンサート会場に来た」20%以上		56.75% ○	
		パイプオルガン事業の連携施設 6施設以上		2	6施設 ○
	障がいの有無に関係なく誰もがともに音楽に親しみ、音楽を通して新たな喜びを得る機会創出	連携する全施設で実施する公演の総入場者数2,000人以上		1,195人 ×	
		アウトリーチ学校数4校以上	5	4校 ○	
		参加者アンケートで、事業内容の満足度4.7以上(5点満点)	4	4.96 ○	
		鑑賞ガイド参加者数30人(介助者含む)	4	32人 ○	
		障がいのある方の入場者割合:入場者数の20%	4	13% ×	
学校の課題等確認、実施事業打合せ・下見等6回以上	5	7回 ○			

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■事業期間について

令和4年度は5月からの横浜全市域での音楽イベント「横浜音祭り2022」への参画、10月に大規模改修工事による休館からのリニューアルオープン、その中で8月に仮事務所からホールへの移転等もあり、早めに各事業が動き出しました。リニューアルオープン前には、地域を会場とした事業を集約的に実施しました。4月～8月で、普及啓発事業「横浜18区コンサート」を8地域（8公演）で、「パイプオルガンと横浜の街」を9月末～10月中旬にかけて6会場（7事業）で実施したほか、「学校アウトリーチプログラム」も11月末までに4校へのアウトリーチを終えたことで、以降は、リニューアルオープンしたホールに来ていただく体制・プログラムを強化することができました。リニューアルオープンからの1ヶ月は、助成対象事業を含む多数の事業を実施することとなりましたが、事業期間としては、概ね当初の計画通りに進めることができました。リニューアルオープン直前には、施設設備に関するトラブルがあり、事業広報を縮小しなくてはならない場面もありましたが、いずれの事業もよりいっそう事前準備を丁寧に行うことに注力することができました。

要望時に日程・内容未定となっていたものとしては、普及啓発事業「学校アウトリーチプログラム」が挙げられますが、この事業は、新年度になってから各学校と調整を進める事業となっているため、要望時のおおりの6月中にアウトリーチ実施学校を決定し、8月までには、各学校との打合せ・内容ヒアリングを経て、アーティストの調整をし、プログラムを決定しました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響があったものとしては、公演事業「マレク・ヤノフスキ指揮 ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団」が挙げられます。感染症の影響で楽団が来日せず、公演中止となり、助成申請を取り下げました。また、人材養成事業「プロデューサーinレジデンス」では、プロデューサーと当該楽団との共演プログラムを予定していましたが、国内のオーケストラとの共演プログラムに変更し、日程も若干変更となりました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■事業費について

助成対象事業計13事業（公演事業4／人材養成事業4／普及啓発事業5 ※申請取下げ事業除く）のうち、事業費（助成対象経費）が要望時と決算時で大きく乖離（80%未満または120%以上）した事業は8事業にのぼってしまいましたが、交付申請時に経費の精査を行ったものが多く、申請時と決算時では概ね乖離幅が縮小されました。

一方、公演事業「横浜みなとみらいホールリニューアルオープン記念公演：神奈川フィルハーモニー管弦楽団」は、要望時と決算時の乖離が137.18%で、交付申請時と比較しても、経費増となってしまいました。大編成の演奏ということは、計画していたものの、想定以上に出演料等の増額が発生してしまいました。また、前述のリニューアルオープン直前の設備トラブルにより、この公演より前の日程で実施予定だった式典等も中止となった上に、前日・前々日に当ホールで予定していたリハーサルも別会場となり、この事業がまさにリニューアルオープン日となったことによって、諸々の万全を期すための準備にも若干の経費が発生することとなりました。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

地域の文化拠点として、横浜市全域での音楽イベント「横浜音楽祭 2022」の中心的な位置づけの施設として、大規模改修工事による休館中は地域での音楽展開、リニューアルオープン後は、地域展開で得たノウハウ等も活かし、音楽に親しむ層の拡大や音楽の新たな価値を創造する拠点としての機能を発揮する事業を展開しました。

■新たな音楽の価値の創造

人材養成事業「プロデューサーinレジデンス」は、演奏家が“ミュージシャン・プロデューサー”となって、ホールとともに公演や事業制作することで、演奏家としての幅を広げ、プロデュース力を磨くという新たな事業展開となりました。2021年-2023年のプロデューサーの藤木大地氏とともに令和3年度より企画・準備してきた事業が令和4年度に3公演実現しました。海外オーケストラとの共演は、新型コロナウイルス感染症の影響で国内オーケストラとの共演となりましたが、横浜だけの特別プログラムとなりました。また、洗足学園音楽大学の学生たちと制作した音楽劇では、横浜市内の小学校教員がコーラスで参加し、学生×アーティスト×ホール×市内学校との連携によるこれまでにない事業となりました。「藤木大地&みなとみらいクインテット」では、当ホールでの公演前後に、他都市でも実施され、横浜からの発信力を高めるものとなりました。これらの事業を通して、プロデューサーの新たな視点が様々な活かされ、またこれからのアーティスト活動にも活かされることが期待できるものとなりました。



*「プロデューサーinレジデンス」
横浜みなとみらいホール×洗足学園音楽大学
音楽劇『天岩戸』

撮影：藤本史昭

■社会包摂の取組み

普及啓発事業「ミュージック・イン・ザ・ダーク」は、視覚に障がいのある演奏家と障がいのない演奏家のアンサンブル演奏による公演で、一部客席の照明をすべて消して演奏する演出を取り入れ、音楽そのものを感じる公演として継続的に開催しています。公演前に視覚に障がいのある方を対象に実施する『鑑賞ガイド』も昨年度に引き続き実施しました。今回は、弦楽器の公演ということで、触ることができるヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスを用意し、実際触れて、音を出してみる体験をしていただきました。講師も公演の出演者に務めていただき、公演の理解を深めていただく機会となりました。公演来場者からのアンケートでは、「障がい者と晴眼者との共生社会実現のための素晴らしい企画」という声が多数ある一方、「共生社会実現のためというのなら“視覚に障がいある演奏家”と“障がいのない演奏家”のアンサンブルという打ち出しは不要なのではないか」という声もあり、『共生社会』をともに考えるという意味では、こうした様々な声が公演の目的を満たすものであったとも言えます。

また、普及啓発事業「学校プログラム」の中では、中学校の個別支援級（1～3年生）を対象としたプログラムを実施。ジャンベ体験プログラムを提供し、最後の授業では、体育館で保護者や他の生徒たちを前に成果発表会まで実施することができました。学校の先生からは、『「集団」という意識が薄かった生徒たちが、たった数時間の練習でガラッと変わり、周囲を鼓舞する声かけ、成功を喜び合う姿を見て、全員で1つのものを創り上げる素晴らしさを感じました。新しいものに触れたり、初めて会う人々とのコミュニケーションは、こんなにも人を変えるんだと感じました。』というコメントをいただき、「子どもたちの新たな可能性を引き出す」という本事業の目的を達成したことを実感しました。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

■横浜市全域での事業展開

令和4年度は10月末に大規模改修工事による休館からのリニューアルオープン前には横浜市内外各地域での公演開催、リニューアルオープン後はアウトリーチでのワークショップ実施など、前年度同様に市内全域を対象として事業を展開しました。公演事業「こどもの日コンサート」で1か所、人材養成事業では、「みなとみらい Super Big Band」での出張演奏市内4か所、「吹奏楽部応援プロジェクト」でのワークショップ中学校2か所・演奏会1か所、普及啓発事業では「横浜18区コンサート」8か所、「パイプオルガンと横浜の街」6か所、「学校プログラム」小中学校4か所、計施設外での鑑賞・体験プログラム28か所で実施しました。

「横浜18区コンサート」では、それぞれの公演アンケートで、“当該会場に初めて来た”を回答いただく設問での“初めて”の回答割合が、昨年度の約45%を大きく上回り56.8%程となりました。演奏会場となった地域をより知っていただいた方、身近な施設で気軽に音楽に触れていただいた方など、音楽を通して地域での文化振興にもつながったものと思います。

また、アーティストを地域の学校に派遣して芸術体験の場を提供する人材養成事業「吹奏楽部応援プロジェクト」や、普及啓発事業「学校アウトリーチプログラム」では、部活動や学校の授業の中で本物の音楽体験を提供することで、地域への文化芸術の振興につながるだけでなく、アーティストにとってもアーティストとしての活動を紹介でき、また教えるという貴重な体験になり今後の音楽活動にもつながるものとなっています。

■横浜からの芸術発信

横浜においては、将来の音楽シーンを彩るだろう若手ピアニストを世界から見出し紹介し、横浜から発信する、1982年から続く『横浜市招待国際ピアノ演奏会』や、敬遠されがちな「現代音楽」を取り上げ、時代性の反映される同時代の音楽を新作として発表・紹介する、1999年から続く『Just Composed』（前身である「日本の作曲家シリーズ」は1977年～）を長年継続し、広く発信しています。当館では、その2事業について、若手演奏家や作曲家、同時代の音楽など、新しい価値を創造・継承する事業として、1998年の開館以来取り組んでいます。

令和4年度も公演事業「横浜市招待国際ピアノ演奏会」では、公募による審査の上、4名のピアニストが選考され出演しました。さらに40回を記念し、世界的に活躍している2人のピアニスト（マルタ・アルゲリッチ、海老彰子）のデュオ・リサイタルは、横浜のみの特別公演となりました。4名のピアニスト及び特別公演については、ピアノ専門誌「ショパン」にて表紙を含む6ページにわたって紹介されました。

普及啓発事業「Just Composed 2023 in Yokohama」は、令和4年度は、2020年3月実施予定で新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていた、合唱を取り上げたプログラム（右写真）と、ピアノを取り上げたプログラムの2公演を実施。合唱の作品では、1人1パートが織りなす響きで、言葉が音となって紡がれました。ピアノ作品では、ピアノとティンパニという組み合わせで気品のある美しい音色にティンパニの力強さなどが加わりました。いずれの公演も新たな価値の創造や音楽の可能性が大きく広がる内容を、横浜オリジナルプログラムとして発信しました。

また、人材養成事業「プロデューサーinレジデンス」では、プロデューサー・藤木大地が、井上道義指揮 NHK交響楽団と共演する横浜だけのプログラムの実施や、「藤木大地&みなとみらいクインテット」公演を同タイトルで他都市でも巡回するなど、横浜からの発信ということを推進しました。



* 「Just Composed 2023 Winter in Yokohama」
驚異の声、驚異の言葉
未体験の音空間へようこそ！

撮影：藤本史昭

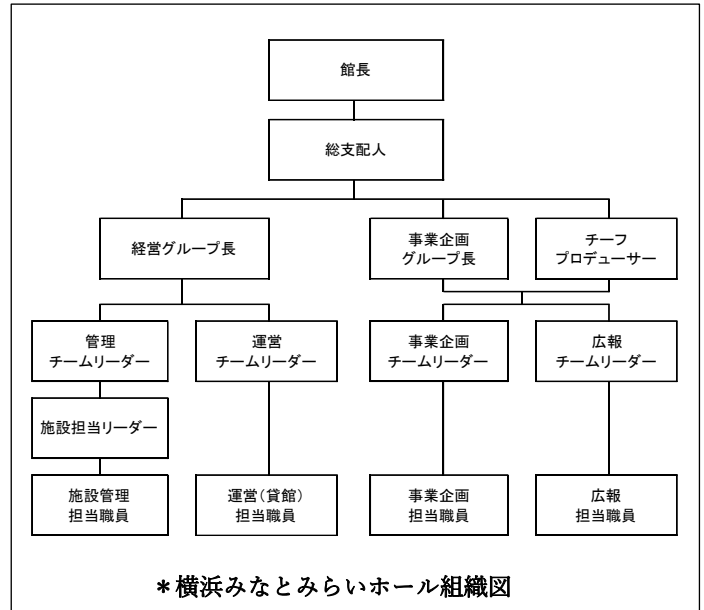
(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

■人材面

館長の新井鷗子を芸術監督的な役割に据え、館全体のマネジメントは総支配人が担い、事業の収支面での執行管理を行う事業企画グループ長のほかに、事業の企画・進行管理を行うチーフプロデューサーを2名配置することで、芸術性・企画性の高さを保ちながら、事業の進行や収支の面でも管理を行える体制をとっています。さらに令和4年度には大規模改修工事からのリニューアルオープンを迎えるにあたり、広報も強化し館のプレゼンス向上をはかりました。事業企画を担当する職員は、音楽専門ホールであるとともに、地域の中核施設であることを意識し、公演、人材養成、普及啓発など幅広く専門性を発揮できるように、横浜市芸術文化振興財団での専門人材研修等により専門性を磨いています。また、令和4年4月よりあたらしく就任したホールオルガニストは、助成対象事業：人材養成事業「ホール・オルガニスト」の中で、横浜みなとみらいホールのオルガニストとして必要な知識・理解や企画力の醸成等に取組み館の一員としての役割を担っています。その他施設運営（貸館）においても、国内の主要オーケストラや海外オーケストラ公演への協力のほか、利用者が自主事業の来場者・参加者になることも想定し、事業運営とも密接に連携を図り、館全体で人員体制の強化を進めています。



■財務面

当館の主な収入は、指定管理料収入・横浜市からの事業負担金、施設利用料金収入、入場料等収入、助成金・協賛金収入となります。その中で、事業は可能な限り指定管理料に頼らない事業実施に努め、ホール（大小ホールとも）の利用率が100%に近い中で大きな収入源でもある施設利用料収入を確保するために、自主事業の割合を3割程度に抑えることで収支のバランスを保っています。令和4年度は、リニューアルオープン等を機に特別公演（横浜市招待国際ピアノ演奏会特別公演）や継続事業でも内容を一新した公演（石田組 年末感謝祭＝旧シルヴェスターコンサート）など、予定を大きく上回る収入を得ることができ、その分収入を得られにくい普及事業を充実させることができました。さらに本助成をいただくことで、人材養成事業でも幅広い企画を実施することにもつながりました。今後も、様々な助成制度の活用や企業協賛金の獲得のほか、年間事業全体での収支バランスを調整し、継続的に芸術文化振興に寄与する事業展開をはかっていきます。

■ネットワーク構築

令和4年度上半期は休館中ということもあり、前年度に引き続き普及啓発事業「横浜18区コンサート」「パイプオルガンと横浜の街」等において、各区・地域との連携強化をはかりました。また、人材養成事業「プロデューサーinレジデンス」においては、プロデューサーとともに他都市連携に取り組み、本事業の一つである「藤木大地&みなとみらいクインテット」公演は、当館での開催以外に、横浜市内他施設で2か所、福岡県、広島県で開催し、ネットワーク構築につながっています。また、人材養成事業「プロデューサーinレジデンス」「吹奏楽部応援プロジェクト」、普及啓発事業「学校アウトリーチプログラム」等では、小中学校へのアウトリーチや大学との共同制作事業など、各教育団体等との連携も様々なかたちで拡がり、今後の幅広いネットワーク構築の可能性が見えてきています。